

関西支部長
田中 千秋

(昭33年卒)

二次電池産業の現状と将来

洛友会報

京都大学工学部電気系教室内
洛友会
〒606-8202
京都市左京区田中大堰町49
075-701-3164

1. 情報技術革命に期待するもの
バブル崩壊後、長い間にわたって不況が続いている。経済企画庁が、昨年4月を「谷」として景気拡大期に入ったと判定したり、経済成長率が昨年度はプラスに転じたなど、若干の明るさは感じられないでもないが、依然として、人員、設備、負債の過剰感はぬぐいきれないなど、日本経済が回復基調となつたという実感はない。

その中で「IT革命」という言葉に代表されるように、情報技術産業が、景気回復の先導役として、最も大きな期待を集めている。いずれは「ゲノム革命」にその座をあけわたすことになるかも知れぬが、当面はIT革命が産業界における最大の関心事であり、この分野における洛友会会員の活躍が重要であり、大いに期待されるところである。

2. 技術革新のもたらす影響
つい最近、「ヒトノゲム」の全体像が解明されたとき、さまざまな切り口で、人類に与える多大な影響について論じられた。しかし、その多くは、「医業」や「薬業」についてであり、人間そのものの影響について、つまり人類の幸福といかかるかわりを持つかと、少なかつたことを残念に思う。

私は現在、電池製造業にたずさわっていることもあり、以下に電池産業、それも主として二次電池産業の現状と将来について、きわめてあらっぽい概要を述べてみたい。

3. 最近の電池の市場動向

別表は、最近4年間の、各種電池の販売数量および販売金額の推移を示す。

表からもわかるように、現在の電池の市場規模は、一次電池で約2000億円、二次電池で約600億円、合計8000億円である。

1. 情報技術革命に期待するもの

バブル崩壊後、長い間にわたって不況が続いている。経済企画庁が、昨年4月を「谷」として景気拡大期に入ったと判定したり、経済成長率が昨年度はプラスに転じたなど、若干の明るさは感じられないでもないが、依然として、人員、設備、負債の過剰感はぬぐいきれないなど、日本経済が回復基調となつたという実感はない。

その中で「IT革命」という言葉に代表されるように、情報技術産業が、景気回復の先導役として、最も大きな期待を集めている。いずれは「ゲノム革命」にその座をあけわたすことになるかも知れぬが、当面はIT革命が産業界における最大の関心事であり、この分野における洛友会会員の活躍が重要であり、大いに期待されるところである。

2. 技術革新のもたらす影響

つい最近、「ヒトノゲム」の全

葉に代表されるように、情報技術産業が、景気回復の先導役として、最も大きな期待を集めている。いずれは「ゲノム革命」にその座をあけわたすことになるかも知れぬが、当面はIT革命が産業界における最大の関心事であり、この分野における洛友会会員の活躍が重要であり、大いに期待されるところである。

3. 最近の電池の市場動向

別表は、最近4年間の、各種電

池の販売数量および販売金額の推

移を示す。

各種電池の販売数量 (単位: 億個)

種類	年(1~12月)	'96	'97	'98	'99
一次電池		46.9	48.5	50.2	50.6
二次電池	鉛電池	0.5	0.5	0.5	0.5
	アルカリ電池	10.7	12.9	12.5	14.6
	リチウムイオン電池	1.1	1.9	2.6	3.7
小計		12.3	15.3	15.6	18.9
合計		59.2	63.8	65.8	69.5

各種電池の販売金額 (単位: 百億円)

種類	年(1~12月)	'96	'97	'98	'99
一次電池		19.3	19.8	20.0	20.2
二次電池	鉛電池	18.2	17.1	15.8	15.5
	アルカリ電池	19.7	21.6	19.2	18.9
	リチウムイオン電池	13.8	20.6	24.3	26.3
小計		51.7	59.2	59.3	60.7
合計		71.0	79.0	79.4	81.0

I.T.革命は、生活に利便性をもたらし、産業界に「設備投資」や「生産性向上」などを通じて大いなる活力を与えることは間違いない。しかし、例えば「生産性向上」についていえば、それが単に人員削減の効果が中心になるようではいかにもさみしい。情報技術は人の創造力を高め、それをいかんなく発揮するような効果でなければならぬと思つ。

21世紀は「心の時代」である。技術革新は、人を生かし、ひいては人の幸せにつながるようなものでなければならないし、そのような使われ方でなければならないともいえよう。

さて、I.T.革命において、核となる技術は電子・情報の技術といえよう。また、別の視点から、「電池」がI.T.革命におけるキーデバイスの一つであるともいえる。

私は現在、電池製造業にたずさわっていることもあり、以下に電池産業、それも主として二次電池産業の現状と将来について、きわめてあらっぽい概要を述べてみたい。

3. 最近の電池の市場動向

別表は、最近4年間の、各種電池の販売数量および販売金額の推移を示す。

表からもわかるように、現在の電池の市場規模は、一次電池で約2000億円、二次電池で約600億円、合計8000億円である。

4. 二次電池産業の将来

今後の課題は、より一層の小型化、かつ、毎年伸びづけていている。特に、情報産業市場向けの小型二次電池は、ここ数年、著しい需要の増大がつづいており、技術変化もはげしい。

最も注目を集めているのは、小型リチウムイオン電池である。この電池は、エネルギー密度の高いことを最大の特徴とし、1995年から実用化され、その後毎年その数量の伸びは数十%となっていく。主な用途は、携帯電話、ノートパソコン、ポータブルVTRなどであり、これら携帯用機器の小型化に多大な貢献を果たしている。

なお、他の小型二次電池も含め、携帯機器用の小型二次電池は、世界総需要の大半を日本の電池メーカーが生産している。

4. 二次電池産業の将来

今後の課題は、より一層の小型化、かつ、毎年伸びづけていている。

特に、情報産業市場向けの小型二次電池は、ここ数年、著しい需要の増大がつづいており、技術変化もはげしい。

最も注目を集めているのは、小型リチウムイオン電池である。この電池は、エネルギー密度の高いことを最大の特徴とし、1995年から実用化され、その後毎年その数量の伸びは数十%となっていく。

主な用途は、携帯電話、ノートパソコン、ポータブルVTRなどであり、これら携帯用機器の小型化に多大な貢献を果たして

いる。

さて、I.T.革命において、核となる技術は電子・情報の技術といえよう。また、別の視点から、「電池」がI.T.革命におけるキーデバイスの一つであるともいえる。

私は現在、電池製造業にたずさわっていることもあり、以下に電池産業、それも主として二次電池産業の現状と将来について、きわめてあらっぽい概要を述べてみたい。

3. 最近の電池の市場動向

別表は、最近4年間の、各種電池の販売数量および販売金額の推

移を示す。

表からもわかるように、現在の電池の市場規模は、一次電池で約2000億円、二次電池で約600億円、合計8000億円である。

4. 二次電池産業の将来

今後の課題は、より一層の小型化、かつ、毎年伸びづけていている。

特に、情報産業市場向けの小型二次電池は、ここ数年、著しい需要の増大がつづいており、技術変化もはげしい。

最も注目を集めているのは、小型リチウムイオン電池である。この電池は、エネルギー密度の高いことを最大の特徴とし、1995年から実用化され、その後毎年その数量の伸びは数十%となっていく。

主な用途は、携帯電話、ノートパソコン、ポータブルVTRなどであり、これら携帯用機器の小型化に多大な貢献を果たして

いる。

さて、I.T.革命において、核となる技術は電子・情報の技術といえよう。また、別の視点から、「電池」がI.T.革命におけるキーデバイスの一つであるともいえる。

私は現在、電池製造業にたずさわっていることもあり、以下に電池産業、それも主として二次電池産業の現状と将来について、きわめてあらっぽい概要を述べてみたい。

3. 最近の電池の市場動向

別表は、最近4年間の、各種電池の販売数量および販売金額の推

移を示す。

表からもわかるように、現在の電池の市場規模は、一次電池で約2000億円、二次電池で約600億円、合計8000億円である。

4. 二次電池産業の将来

今後の課題は、より一層の小型化、かつ、毎年伸びづけていている。

特に、情報産業市場向けの小型二次電池は、ここ数年、著しい需要の増大がつづいており、技術変化もはげしい。

最も注目を集めているのは、小型リチウムイオン電池である。この電池は、エネルギー密度の高いことを最大の特徴とし、1995年から実用化され、その後毎年その数量の伸びは数十%となっていく。

主な用途は、携帯電話、ノートパソコン、ポータブルVTRなどであり、これら携帯用機器の小型化に多大な貢献を果たして

いる。

さて、I.T.革命において、核となる技術は電子・情報の技術といえよう。また、別の視点から、「電池」がI.T.革命におけるキーデバイスの一つであるともいえる。

私は現在、電池製造業にたずさわっていることもあり、以下に電池産業、それも主として二次電池産業の現状と将来について、きわめてあらっぽい概要を述べてみたい。

3. 最近の電池の市場動向

別表は、最近4年間の、各種電池の販売数量および販売金額の推

移を示す。

表からもわかるように、現在の電池の市場規模は、一次電池で約2000億円、二次電池で約600億円、合計8000億円である。

4. 二次電池産業の将来

今後の課題は、より一層の小型化、かつ、毎年伸びづけていている。

特に、情報産業市場向けの小型二次電池は、ここ数年、著しい需要の増大がつづいており、技術変化もはげしい。

最も注目を集めているのは、小型リチウムイオン電池である。この電池は、エネルギー密度の高いことを最大の特徴とし、1995年から実用化され、その後毎年その数量の伸びは数十%となっていく。

主な用途は、携帯電話、ノートパソコン、ポータブルVTRなどであり、これら携帯用機器の小型化に多大な貢献を果たして

いる。

さて、I.T.革命において、核となる技術は電子・情報の技術といえよう。また、別の視点から、「電池」がI.T.革命におけるキーデバイスの一つであるともいえる。

私は現在、電池製造業にたずさわっていることもあり、以下に電池産業、それも主として二次電池産業の現状と将来について、きわめてあらっぽい概要を述べてみたい。

3. 最近の電池の市場動向

別表は、最近4年間の、各種電池の販売数量および販売金額の推

移を示す。

表からもわかるように、現在の電池の市場規模は、一次電池で約2000億円、二次電池で約600億円、合計8000億円である。

4. 二次電池産業の将来

今後の課題は、より一層の小型化、かつ、毎年伸びづけていている。

特に、情報産業市場向けの小型二次電池は、ここ数年、著しい需要の増大がつづいており、技術変化もはげしい。

最も注目を集めているのは、小型リチウムイオン電池である。この電池は、エネルギー密度の高いことを最大の特徴とし、1995年から実用化され、その後毎年その数量の伸びは数十%となっていく。

主な用途は、携帯電話、ノートパソコン、ポータブルVTRなどであり、これら携帯用機器の小型化に多大な貢献を果たして

いる。

さて、I.T.革命において、核となる技術は電子・情報の技術といえよう。また、別の視点から、「電池」がI.T.革命におけるキーデバイスの一つであるともいえる。

私は現在、電池製造業にたずさわっていることもあり、以下に電池産業、それも主として二次電池産業の現状と将来について、きわめてあらっぽい概要を述べてみたい。

3. 最近の電池の市場動向

別表は、最近4年間の、各種電池の販売数量および販売金額の推

移を示す。

表からもわかるように、現在の電池の市場規模は、一次電池で約2000億円、二次電池で約600億円、合計8000億円である。

4. 二次電池産業の将来

今後の課題は、より一層の小型化、かつ、毎年伸びづけていている。

特に、情報産業市場向けの小型二次電池は、ここ数年、著しい需要の増大がつづいており、技術変化もはげしい。

最も注目を集めているのは、小型リチウムイオン電池である。この電池は、エネルギー密度の高いことを最大の特徴とし、1995年から実用化され、その後毎年その数量の伸びは数十%となっていく。

主な用途は、携帯電話、ノートパソコン、ポータブルVTRなどであり、これら携帯用機器の小型化に多大な貢献を果たして

いる。

さて、I.T.革命において、核となる技術は電子・情報の技術といえよう。また、別の視点から、「電池」がI.T.革命におけるキーデバイスの一つであるともいえる。

私は現在、電池製造業にたずさわっていることもあり、以下に電池産業、それも主として二次電池産業の現状と将来について、きわめてあらっぽい概要を述べてみたい。

3. 最近の電池の市場動向

別表は、最近4年間の、各種電池の販売数量および販売金額の推

移を示す。

表からもわかるように、現在の電池の市場規模は、一次電池で約2000億円、二次電池で約600億円、合計8000億円である。

4. 二次電池産業の将来

今後の課題は、より一層の小型化、かつ、毎年伸びづけていている。

特に、情報産業市場向けの小型二次電池は、ここ数年、著しい需要の増大がつづいており、技術変化もはげしい。

最も注目を集めているのは、小型リチウムイオン電池である。この電池は、エネルギー密度の高いことを最大の特徴とし、1995年から実用化され、その後毎年その数量の伸びは数十%となっていく。

主な用途は、携帯電話、ノートパソコン、ポータブルVTRなどであり、これら携帯用機器の小型化に多大な貢献を果たして

いる。

さて、I.T.革命において、核となる技術は電子・情報の技術といえよう。また、別の視点から、「電池」がI.T.革命におけるキーデバイスの一つであるともいえる。

私は現在、電池製造業にたずさわっていることもあり、以下に電池産業、それも主として二次電池産業の現状と将来について、きわめてあらっぽい概要を述べてみたい。

3. 最近の電池の市場動向

別表は、最近4年間の、各種電池の販売数量および販売金額の推

移を示す。

表からもわかるように、現在の電池の市場規模は、一次電池で約2000億円、二次電池で約600億円、合計8000億円である。

4. 二次電池産業の将来

今後の課題は、より一層の小型化、かつ、毎年伸びづけていている。

特に、情報産業市場向けの小型二次電池は、ここ数年、著しい需要の増大がつづいており、技術変化もはげしい。

最も注目を集めているのは、小型リチウムイオン電池である。この電池は、エネルギー密度の高いことを最大の特徴とし、1995年から実用化され、その後毎年その数量の伸びは数十%となっていく。

主な用途は、携帯電話、ノートパソコン、ポータブルVTRなどであり、これら携帯用機器の小型化に多大な貢献を果たして

いる。

さて、I.T.革命において、核となる技術は電子・情報の技術といえよう。また、別の視点から、「電池」がI.T.革命におけるキーデバイスの一つであるともいえる。

私は現在、電池製造業にたずさわっていることもあり、以下に電池産業、それも主として二次電池産業の現状と将来について、きわめてあらっぽい概要を述べてみたい。

3. 最近の電池の市場動向

別表は、最近4年間の、各種電池の販売数量および販売金額の推

移を示す。

表からもわかるように、現在の電池の市場規模は、一次電池で約2000億円、二次電池で約600億円、合計8000億円である。

4. 二次電池産業の将来

今後の課題は、より一層の小型化、かつ、毎年伸びづけていている。

特に、情報産業市場向けの小型二次電池は、ここ数年、著しい需要の増大がつづいており、技術変化もはげしい。

最も注目を集めているのは、小型リチウムイオン電池である。この電池は、エネルギー密度の高いことを最大の特徴とし、1995年から実用化され、その後毎年その数量の伸びは数十%となっていく。

主な用途は、携帯電話、ノートパソコン、ポータブルVTRなどであり、これら携帯用機器の小型化に多大な貢献を果たして

いる。

さて、I.T.革命において、核となる技術は電子・情報の技術といえよう。また、別の視点から、「電池」がI.T.革命におけるキーデバイスの一つであるともいえる。

私は現在、電池製造業にたずさわっていることもあり、以下に電池産業、それも主として二次電池産業の現状と将来について、きわめてあらっぽい概要を述べてみたい。

3. 最近の電池の市場動向

別表は、最近4年間の、各種電池の販売数量および販売金額の推

移を示す。

表からもわかるように、現在の電池の市場規模は、一次電池で約2000億円、二次電池で約600億円、合計8000億円である。

4. 二次電池産業の将来

今後の課題は、より一層の小型化、かつ

懇話会のご案内

恒例の電気系教室懇話会を左記のとおり開催致します。万障
お繰り合わせの上、ご出席を賜りますようお願い致します。

どはさほどの意味は無く、実質・内容の方が重要で大切だと考えて参りましたが、この度の自分の心の動きを振り返りますに、どうやらこの認識を改めねばならないよ

日時 平成年10月27日(金)
講演会 15時～17時30分
講演者：木村聰
受付銀：名譽教受

講演者	木村	磐根	名譽教授
場所	森	詳介	関西電力(株)常務
懇親会	富田	泰溥	星和電機(株)取締役
二場所	18時	電気総合館中講義室	
	19時30分		
吉田(旧教養部)	生協食堂		

停年退官の御挨拶

上田 眺亮（昭34年卒）

今年の3月の末日に京都大学電気系教室を停年退官しました。大學院博士課程退学後、36年の永きにわたり、良き先輩、同僚、後輩、教室職員の皆様から公私にわたらる御支援と御好誼を頂きましたことにより、大過無く勤める事が出来ました。ここに厚く御礼申し述べます。4月からは新しい職場、公



退官の数年前から、幾つかの大
学から再就職のお誘いを頂戴しま
した。そのなかでも未来大学は声
をかけて下さった最後の、しかもも
最も遠くからのお話でした。この
お誘いを、お受けする決心をした
最大のきっかけは、私が長年本気
で格闘してきた専門分野の適合で
した。私は今まで何事も、看板な

残つておりましたが間もなく消失し、連休に入った頃から、花々が一斉に咲き誇る壯観さは関西しか知らないなかつた私には別天地のようになります。今は、此の上もない快適さを楽しんでおりますが、その先の半年は些か心許ない不安も感じております。

立はこたて未来大学システム情報科学部複雑系科学科に招いて頂きました、当地函館へ来て早く、もう3ヶ月

き 当地函館へ来て早くも3ヶ月
が過ぎました。4月に着任した頃
は歩道と車道の間にわずかな雪が

このような状況でしたので、函館からのお誘いには、地理的な事情もあり少なからず躊躇もしましてが、カオス現象が世の中で認知され定着したことが、複雑系科学の誕生に少なからぬ影響を及ぼしたことの安堵感から、お受けする決心をした次第です。

れない事態です。世の中の事象に疎い私ですら容易に理解し、我が国の基礎研究の行方に、未恐ろしさを感じております。そのようなな事態に陥つても、電気系教室の良き伝統が末永く守られ、さらなる発展を遂げられますよう後輩の皆々様の益々のご健闘を、北の国

の次其綱起客は4708955円ですが、今後は贊助会員数が増えませんと基金を食いつぶすことになつて行きます。Cueの第5号が出来あがりましたので、これを発送するに当たり、贊助会員御加入の依頼状を同封させて頂きました。特に個人的に御加入を依頼しているのではなく、ご所属

から祈念しております。

電氣百周年記念事業と 決算報告

決算報告

洛友会報本年1月号に御報告の通り、百周年記念事業は法人化、あるいは協会への移行を断念し、現状維持で事業の継続を行つております。本年3月末時点での決算は下表記載の通りで、収入としては洛友会会員からの御寄付、関西電力(株)からの御寄付、および賛助会費（8会員）から成っております。また支出は主には予定通り電気系教室の情報誌Cue第3、第4号の印刷発送費で、後は電気百周年記念事業事務局への事務委託費、通信費（電話維持費など）となつております。したがつて、昨年度の次期繰越額は47、089、155円ですが、今後は賛助会員数が増えませんと基金を食いつぶすことになつて行きます。Cueの第5号が出来あがりましたので、これを発送するに当たり、賛助会員御加入の依頼状を同封させて頂きました。特に個人的に御加入を依頼しているのではなく、ご所属の会社やご関連の企業などにご加入のご依頼を頂ければという趣旨でございます。どうかご理解のほど宜しくお願ひ致します。

トパッカード株、島田理化工業株、日本電子エンジニアリング株の8社でした。平成12年度には新しく、日本IBM株、フジテック株、日本

電気システム株、日本ヒューレッ

立電線株に御加入頂きました。

電気百周年記念事業実行委員会

幹事世話代表 木村磐根

(昭30年卒) 記

なるのも無理はないと考えると、むしろ同情さえ覚えるのであつた。全てを終えてホッとした気持ちで後を振り返ると、付き添つていた娘がにこにこしながら

「ご苦労さまでした。どうとう満願ですね。」と労いの声を掛けてくれた。この瞬間私の八十八ヶ寺巡拝の旅は終点に到達。初志を貫徹し遂に満願の日を迎えた満足感と喜びが胸一杯に広がるのであった。

終わって納経所で胸を張り些か誇らしい気持ちで、納経帳の最後のページを開き

「お願いします。」と役僧の前に差し出した。例によつて墨痕鮮やかに寺名とご本尊の薬師如来の名をすらすらと記入した後、この上なく無愛想な顔付きで納経帳を私の方へ押し戻した。

「有り難うございました。」と、今や私は大変大事な納経帳を押しつけよう受け取つた。正直な

地に浸りながら暫くたたずんでいた。四国八十八ヶ寺巡拝の満願の瞬間である。ついで大師堂に参拝、

ところ

の労いの言葉を掛けて貰えると期

会員寄稿

近藤 文治 (昭18年卒)

四国八十八ヶ寺巡拝満願の記

平成11年度洛友会 京都大学電気百周年記念事業決算書

収入の部 (単位:円)

洛友会会員寄付金	50,000	会員3件
企業寄付金	7,000,000	関西電力(株)
賛助会員	800,000	企業8社
利息収入	32,790	定期利息
収入合計	7,882,790	
前期繰越金	42,864,290	
収入合計	50,747,080	

支出の部 (単位:円)

事業費		
Cue刊行費	2,291,943	Cue No.3, 4 印刷発送費
管理費		
事務委託費	1,200,000	
事務用品費	63,861	
通信費	102,121	電話維持費、切手代など
支出合計	3,657,925	
次年度繰越金	47,089,155	
支出合計	50,747,080	

待していたが、終始無言であった。そして次の人の納経帳記入の作業に取り掛かった。考えれば無理もない。一日に何百人もの人に記入を強制されるのである。不機嫌になるのも無理はないと考えると、むしろ同情さえ覚えるのであつた。全てを終えてホッとした気持ちで後を振り返ると、付き添つていた娘がにこにこしながら

故松田長三郎先生のお陰である。先生は京都の中堂寺(壬生寺付近)の出身で、私の生まれた西院村はその隣村で、私の母は先生と同じ小学校に学んだという因縁があつた。その上私は中学校、高等

学校、大学だけでなく勤務先に至るまで先生の後を歩んで来た後輩である。さらに先生のご長男と私は中学校の同窓だったという不思議な縁で結ばれていた。

先生が洛友会の会長として各支部の総会に出席されるとき、常任幹事であつた私が、ご高齢の先生のお供をすることが多かつた。先生は四国支部の総会に出席された翌日、関係者のご案内で四国八十八ヶ寺を巡拝することを楽しみにしておられた。何時頃から初められたのか知らないが、私が巡拝のお供をすることになつたとき、既に香川県(讃岐)及び徳島県(阿波)は終わり、高知県(土佐)と愛媛県(伊予)を残しておられた。

八ヶ寺を巡拝することを楽しみにしておられた。何時頃から初められたのか知らないが、私が巡拝のお供をすることになつたとき、既に香川県(讃岐)及び徳島県(阿波)は終わり、高知県(土佐)と愛媛県(伊予)を残しておられた。

あつた。

私の四国巡礼の旅もご他聞に洩れず多くの人に支えられたことは言うまでもない。先ず最初に感謝を捧げなければならぬのは洛友会四国支部の方々である。今は亡き中川支部長を始め多数の方々のご好意に甘え、讃岐の半ばの寺をご案内頂き、残りは私の個人的なご好意に甘え、讃岐の半ばの寺をご案内頂き、残りは私の個人的なご好意に甘え、讃岐の半ばの寺をご案内頂いた。また阿波全土は、支部からの依頼を受け、德島大学の服部敦美氏(私の研究室の出身で昭44年修士卒)が自らの愛車を駆つてお供をして頂いた(洛友会会報第169号参照)。

四国支部の方々並びに徳大の服部

氏、両者のご好意がなければ、私の巡拝の旅は到底完結しなかつたことを忘れ、我々のペースでお参

りしたこと思い出す。私自身が先生の当時の歳に近づいた今、昔を省みて先生に申し訳ないことをしたと思うのである。私は定年退官後は私学における勤務の関係で、先生のお供をした記憶はなく、恐らく満願に至ることなく他界されたと思う。四国巡礼のお供については、先生が他界されたときの追悼号にも記したが、先生のご心

境を察し、ご冥福を祈る旅として

会社の2、3の人だけで、携帯電話に電話が掛かって来ることなど全く予期していなかった。ところが宇和島の宿を出て松山に向かって走り出して暫くしたら、突然携帯電話が鳴った。呼び出し音に一番驚いたのは所有者本人であった。慌てて電話に出ると、京都の木津町にいる私の長男からの電話であった。用件は、わが家の隣家に住む親戚の当主が亡くなり、明日通夜、明後日葬式につき間に合うようすぐ帰れという。

残りの寺々は、3回に分けて私の次女とその主人の付き添いで、連休を利用して3年に亘り巡拝した。第1回目は平成10年5月1日、完成したばかりの明石大橋を渡り、鳴門大橋を経て徳島から松山に至り、一泊して付近の寺々を巡拝した。第2回目は、平成11年5月1日に娘夫婦が所有する播磨の山荘を早朝に出発して瀬戸大橋を渡り高知を通って、足摺岬方面に足を延ばし、沿道の札所にお参りしながら窪川に至り一泊。翌日は足摺岬から宇和島に至り更に一泊した。ところが翌5月3日、予期しない出来事が続発した。

この時の巡礼の旅に当たって、娘夫婦が出発の寸前に、巡礼と全く別の目的で携帯電話を買い、まだ使い方も判らない状態で車に乗り込んだ。したがつてその電話番号を知っているのは、私の長男と

上げればよいのかその言葉も知らない。重ねて厚く御礼申し上げる次第である。

残りの寺々は、3回に分けて私の次女とその主人の付き添いで、連休を利用して3年に亘り巡拝した。第1回目は平成10年5月1日、完成したばかりの明石大橋を渡り、鳴門大橋を経て徳島から松山に至り、一泊して付近の寺々を巡拝した。第2回目は、平成11年5月1日に娘夫婦が所有する播磨の山荘を早朝に出発して瀬戸大橋を渡り高知を通って、足摺岬方面に足を延ばし、沿道の札所にお参りしながら窪川に至り一泊。翌日は足摺岬から宇和島に至り更に一泊した。ところが翌5月3日、予期しない出来事が続発した。

この時の巡礼の旅に当たって、娘夫婦が出発の寸前に、巡礼と全く別の目的で携帯電話を買い、まだ使い方も判らない状態で車に乗り込んだ。したがつてその電話番号を知っているのは、私の長男と



この時、文明の利器の功罪をつくづくと思い知らされた。まず「功」については説明するまでもないであろう。問題は「罪」である。もし携帯電話がなければ、今夜は今治辺りの温泉で疲れた足腰を伸ばせるのにと、一瞬甚だ不見識な思いが頭を横切った。しかし知つてしまつた今となつては、そんなんのんきなことは言つておれず、最短時間で帰宅する方法をあれこれ模索しながらも、折角だから巡拝だけは予定通り済ませ、大急ぎで北上した。今治に着いたのは日暮まだ薄明るい頃だった。

この時、文明の利器の功罪をつくづくと思い知らされた。まず「功」については説明するまでもないであろう。問題は「罪」である。もし携帯電話がなければ、今夜は今治辺りの温泉で疲れた足腰を伸ばせるのにと、一瞬甚だ不見識な思いが頭を横切った。しかし知つてしまつた今となつては、そんなんのんきなことは言つておれず、最短時間で帰宅する方法をあれこれ模索しながらも、折角だから巡拝だけは予定通り済ませ、大急ぎで北上した。今治に着いたのは日暮まだ薄明るい頃だった。

ところがその帰路がいけなかつた。前年果たすことが出来なかつた「海道」に再度挑戦した。もしこれを果たせば本土と四国を結ぶ3つのルートを総て通つたことになる。大塙寺参拝の後、松山自動車道を西に向かってひた走つて、今治から「海道」に入つた。松山自動車道を降りた後、道幅は県道並みで昨年程ではないにしても相違ない。幸いなことにその日（平成11年5月3日）の正午、地元待望の「瀬戸内しまなみ海道」（以下簡單のため「海道」と略称）が開通した。これを通り尾道から新幹線を利用すればその日の内に帰宅できると考へた。ところが「海道」の入口まで凄い渋滞の中をたどり

着いて、道路公団の人に様子を聞いたら、これから対岸に渡るのに10時間は掛かると言う。これではそれでも話にならない。諦めて松山自動車道に引き返し、瀬戸大橋を渡つて岡山に出た。しかしその時既に真夜中を過ぎていた。新幹線がある筈はなく、その夜は播磨の山荘に泊まり翌日帰宅した。

第3回目の今年の連休には、播磨の山荘をベースキャンプにして、5月1日には瀬戸大橋を渡り、5月4日には、冒頭に記した最後に残つた結願寺大塙寺にお詣りした。まずは満願成就、目出度し目出度しということに相成つた。

北海道より

福井 武（昭43年卒）

約2年前より北海道支部に属しております。会員は総勢14名です。毎年4月末から5月はじめにかけて支部総会を開催しております。年代層は相当開いておりますが各自近況報告等をしながら和気藹々の楽しい総会です。

二、鉱業立地から農業立地

昔は石炭に代表されるように鉱業で栄えた町が多く残つております。鉄道の廃線跡があちこちにあります。鉱山が閉山した後のさびれようは目を覆うばかりです。人口減少が最大の問題です。面影を残していながら、町の大きさの割には飲み屋がやたらと多いことです。さらに習慣として三次会、四次会、五次会と延々と飲み歩くことがあります。こういうことと関係しているのかどうかわかりませんが、北海道の人の喫煙率の多さにもびっくりしております。統計が取れる範囲では世界一の喫煙率を誇ります。

一、素晴らしい自然

観光地北海道は誰でも知つておますが、いわゆる観光地以外に雄大なる自然が残つています。感動させられるところが非常に多いことです。じつくり道内を廻つてみて実感としてわいてきます。農地が広く稻作、畑作、牧畜と豊かな大地がいっぱいです。富良野のパッチワークの丘が知られています。感動させられるところが非常に多いことです。じつくり道内を廻つてみて実感としてわいてきます。農地が広く稻作、畑作、牧畜と豊かな大地がいっぱいです。富良野のパッチワークの丘が知られています。

てあります。北海道ではまだまだ愛煙家にとつては天国です。たば

三 工業が発達しない

本州の経済回復に比べて北海道の回復は遅く実感として景気がよくなつた感は全くありません。

公共事業依存体質が指摘されていますが全くその通りで、目に付くのはあちこちで道路工事。それ

歩道を一生懸命建設している姿を見ると、これでよいのかと思わず考えさせられてしまいます。國の体力があるうちはよいのですが、今まで続けられるのか?

一番の問題点は工業が発達しないということです。何故か?よくわからない面がありますが、実体験をお話しさせていただきます。現在の会社で電気蓄熱式暖房器を製造販売しておりますが、そもそも北海道で使う物を北海道で作るという理念で製造開始しました。しかし、コストダウンを進めていますとどんどん北海道のメーカーが脱落していきます。はつきり言つて競争しているという意識が染みついていないというのが実感です。何とか仕事がきていためそれでよいという感覚でしがみついてでも仕事を確保したいといふ姿勢がないようです。豊かな大地に恵まれて育ってきたからでし

中国地方を縦貫する500kV基幹送電線系統は、山陽側に「ルート」が昭和55年度に既に完成していますが、もう一つの建設が現在山陰側で進められており、平成13年には山口県～島根県～鳥取県～兵庫県を結ぶ「ルート」が完成します。私が建設に携わったのは、そのうち、島根県～鳥取県の区間（150km、平成10年度完成）でした。

基幹送電線建設に従事して
熊谷 泰美（昭61年卒）

るのを見ると、何故北海道に工業が発達しないのか不思議に思うことがあります。欧米人の遊牧民族と、アジアの農耕民族との民族の差なのでしょうか？こうなると絶望的になりますが？

豊かな大地、人もよく、湿度が低く過ごしやすい気候で、生産拠点としては打ってつけ。今後の工業発達に大いに期待したいと思います。

しかし、過去何回か欧米の製造会社を見る機会に恵まれました。

出かねない（私は出会いませんで
したが）場所でもあり、また冬に
はかなりの積雪もあります。ただ、
こうした厳しく荒っぽい作業環境
の中では、工事を能率よく進めてい
くためのキーポイントは、実は
「段取り」（準備）を緻密に十分
に行なうこと」なのです。

まず、山奥深くの工事現場では、
資機材をヘリで運搬することにな
ります。他に運搬手段がないので

過地が山岳部となることが多いのですが、私の担当工区も例外に漏れず山がちな場所がほとんどでし

は20～30m)の深さに掘つていくのですが、山中の工事現場には平らなスペースはほとんどありません(場所によっては傾斜が40度を超えることもある)し、造成して平らなスペースを作るわけにもいきません(大量の土を搬出入する方法がないので)。

そこで、個々の工事現場に合わせて、クレーン等の設置場所の確保や、掘削した土を埋め戻すまで

とめ、できるだけヘリポートと現場の往復回数を少なくする必要があるからです。

(3) 同様にしてワイヤを電線に置き換える。

④ 滑車上の電線を、碍子を介して各鉄塔に取り付ける。

といった流れで行います（張る電線の条数が多い場合は、(3)～(4)を適宜繰り返します）。

は20～30m)の深さに掘つていくのですが、山中の工事現場には平らなスペースはほとんどありません（場所によっては傾斜が40度を超えることもある）し、造成して平らなスペースを作るわけにもいきません（大量の土を搬出入する方法がないので）。

そこで、個々の工事現場に合わせて、クレーン等の設置場所の確保や、掘削した土を埋め戻すまでの仮置きスペースを確保するなどの『段取り』を、実際に掘削を始める前に十分時間をかけて（場合によっては一ヶ月くらいかけて）行います。鉄塔の基礎工事全体の工期が、一基あたり3ヶ月程度ですから、この準備期間は長いように思われるかもしれません。しかし時間をかけてきちんと準備をしたほうが、結局基礎工事全体の工期が短くてすむ、特に作業条件の悪いところ（急傾斜地等）ほどその傾向が強い、というのが私の実感です。まさに「急がば回れ」の本です。

基礎が完成しその上に鉄塔を組み立てたら、最後は電線を張る。「架線工事」です。架線工事は連続した鉄塔10基、4～5km程度を単位（セクション）として、

とめ、できるだけヘリポートと現場の往復回数を少なくする必要があるからです。

②通したナイロンロープの片端にワイヤを取り付け、セクションの反対側の端から引き抜く（ナイロンロープがワイヤに置き換わります）。

③同様にしてワイヤを電線に置き換える。

④滑車上の電線を、碍子を介して各鉄塔に取り付ける。

といった流れで行います（張る電線の条数が多い場合は、③～④を適宜繰り返します）。

この一連の作業のために、必要なワイヤの長さ・条数・引抜き張力などについて、詳細な検討・準備が不可欠です。特にワイヤ引抜き張力は、大きすぎると引抜かれれる電線に過大な張力がかかつてしまふ一方、小さすぎると電線が垂れ込んでしまい線下の樹木などに接触してしまうため、決定には十分な検討を行います。また他にも、ワイヤ引抜きや電線送り出しのためのスペース確保、線下の道路や配電線などの防護措置、支障となる樹木の伐採など検討・準備する項目は多岐に亘るため、前記①の工程に着手するまでの『段取り』に一ヶ月程度をかけます。①～④にかかる工期が1～2ヶ月程度であることを考えれば、やはり準備

にしつかり時間かけることがおわかりいただけます。

以上、ご紹介してきたような仕事ぶりに接して、「『段取り』は十分に、条件が悪いときは特に念入りに」が、仕事をする上での私の座右の銘となりました。もちろんこれまでお話しした「『段取り』」の緻密さ・手際よさは、作業員の皆さんの経験・ノウハウに負うところが大きいのはもちろんのことです。送電線工事では、一基一基の工事現場の状況が全て異なり、その異なる個々の状況下で能率よく工事を進めていく必要があるため、「『段取り』」を含めた仕事のやり方の巧拙が、作業能率や工期に大きく影響してくるからです。

昨今の電気事業をめぐる情勢から、電気事業をめぐる設備投資も縮小傾向にあり、送電線建設の工事量もめつきり減っているようです。しかし、今後も送電線建設が必要であり続ける限り、これら「『段取り』」も含めた建設の貴重なノウハウが、将来にわたってしっかりと受け継がれていくことを祈念して止みません。

本部総会報告

本部総会は6月3日、別掲関西支部総会に引き続いだ開催され、近藤会長の挨拶の中で、支部交付

本部だより

表-2 平成12年度収支予算

(平成12年4月1日～平成13年3月31日)

1. 収入の部		
科 目	予 算 額	(単位 円) 平成11年度決算額
会費(学部)	9,450,000	9,909,000
(講習所)	150,000	156,000
預金利子	500	1,526
広告掲載料	140,000	6,006,000
雑 収 入	0	6,000
収 入 小 計	9,740,500	16,078,526
前年度繰越金	12,261,925	9,272,319
合 計	22,002,425	25,350,845

2. 支出の部		
科 目	予 算 額	(単位 円) 平成11年度決算額
名簿編集費	0	127,050
電算機処理費	0	1,077,528
印刷費	0	4,672,500
発送費	0	1,239,461
会報編集費	0	0
印刷費	500,000	499,800
発送費	1,650,000	1,629,907
備品費	0	0
通信費	100,000	114,566
会員原簿管理費	700,000	650,311
会合費	350,000	366,195
総会費	300,000	300,000
集金費	200,000	202,005
消耗費	350,000	419,145
旅費	350,000	242,260
懇話会補助費	250,000	250,000
支部交付金	2,523,342	0
事務人件費	1,200,000	1,200,000
雜費	0	98,192
予備費	0	0
支出小計	8,473,342	13,088,920
次年度繰越金	13,529,083	12,261,925
合 計	22,002,425	25,350,845

表-1 平成11年度収支決算報告書

(平成11年4月1日～平成12年3月31日)

1. 収入の部		
科 目	予 算 額	(単位 円) 決算額
会費(学部)	8,910,000	9,909,000
(講習所)	186,000	156,000
預金利子	1,000	1,526
広告掲載料	4,340,000	6,006,000
雑 収 入	0	6,000
収 入 小 計	13,437,000	16,078,526
前年度繰越金	9,272,319	9,272,319
合 計	22,709,319	25,350,845

2. 支出の部		
科 目	予 算 額	(単位 円) 決算額
名簿編集費	150,000	127,050
電算機入力資料、パート代金	850,000	1,077,528
電算機処理費	5,500,000	4,672,500
印刷費	1,300,000	1,239,461
会報編集費	0	0
印刷費	1,200,000	499,800
発送費	1,650,000	1,629,907
備品費	0	0
通信費	100,000	114,566
会員原簿管理費	800,000	650,311
会合費	350,000	366,195
総会費	300,000	300,000
集金費	200,000	202,005
消耗費	350,000	419,145
旅費	350,000	242,260
懇話会補助費	250,000	250,000
支部交付金	0	0
事務人件費	1,200,000	1,200,000
雜費	0	98,192
予備費	0	0
支出小計	14,550,000	13,088,920
次年度繰越金	8,159,319	12,261,925
合 計	22,709,319	25,350,845

平成12年4月27日、応用科学研究所において、領収書、帳簿等関係書類を慎重に監査し、支出及び決算が適正であると認めました。

幹事 藤田 茂夫

図った結果、次年度への繰越額が約410万円強増加いたしました。

また、平成12年度事業計画、予算案についても原案のまま承認され、平成12年度予算は表2に示しました。

なお、総会に先立つ役員会では、

46年卒)が選任されました。

また、本部総会では電気百周年

表の幹事も藤田茂夫教授(昭41年卒)に代わって、吉田進教授(昭

46年卒)が選任されました。

や近況報告などにも新鮮味が溢れ、60才以上も年令差のある人々の集まりとは考えられないほど、興味深いものがあり、楽しいひとときを過ごすことができた。

追記

洛友会会報（平成12年4月1日付）にて、前会長大谷泰之先生の逝去の報を知り、遅ればせながら謹んで哀悼の意を表し、北海道支部総会の席上、会員一同により黙祷を捧げて冥福を御祈り申し上げました。

大谷先生は、昭和29年洛友会北海道支部創設の際に、故藤義信先生と一緒にご来札され、また、平生と一緒にご来札され、また、平



写真説明
前列左より西村・池内・中山・谷村
後列左より山下・内藤・石坂・福井・
芝山・木元

成4年6月には先生御自身のクラス会にご来道、その年の北海道支部総会にもご出席下さいました。更に、本部役員会に支部長が出席したときにはいつも暖かいお言葉をかけて下さったことも覚えております。

北海道支部には、本部より派遣される役員の方が少ない中で、大谷先生はご縁が深く、会員一同にとつても印象が深かつたように思っています。

この度の支部総会に当つては、予め用意した当時の記念スナップ写真を回覧に供し、在りし日の先生を偲んだ次第です。

支部長 池内 義則（昭21年卒）記

九州支部総会報告

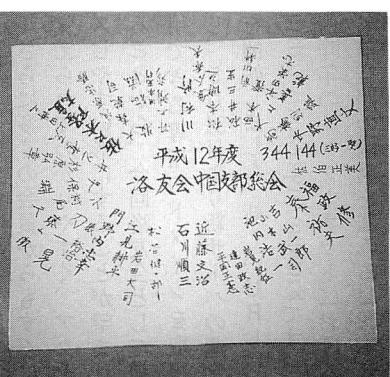
5月12日（金）、博多駅前のホーテルステーションプラザにおいて、平成12年度洛友会九州支部総会が開催されました。

当日は、本部から近藤文治先生にご出席いただきました。また支部からは、昭和12年卒の大先輩から今春社会人になつたばかりの新会員まで23名が参加しました。

総会は、九州支部では恒例となつた二部形式で行われ、第一部の立食パーティーでは、近藤先生を囲んでの歓談がなごやかに行われました。

会場を移しての第二部は、会食形式で行われ、支部長挨拶のあと、

榎本 孝史（昭63年卒）記



中国支部総会報告

平成12年5月19日（金）広島全日本ホテルにおいて第47回目となる平成12年度洛友会中国支部総会が開催されました。総会には本部から近藤先生、教室から石川先生

まで出席されました。総会は司会の中野幹事の開会宣言で開会されました。池内支部長より挨拶をいただき、引き続いて支部事務局から支部会員異動状況、支部活動状況を報告、会計決算、予算案について説明を行い、出席者全員の了承を得て各案が承認されました。

続いて近藤先生より洛友会本部の近況について、石川先生より大学の近況について、それぞれお話をいただき、当初の議事を全て順調に終了し、中野幹事の閉会宣言で支部総会を終了しました。

写場での記念撮影の後、全日空ホテル最上階の懇親会会場へと場所を移し支部恒例の懇親会の始まりとなりました。ホテル最上階から広島の夜景を眺めながら、支部会員の思い出話、近況報告、大学を卒業されたばかりの3名の新規会員の方による初心表明等々、終始和やかな談笑の中で会が進行し大いに懇親を深めた後、最後には近藤先生の挨拶と乾杯の音頭で支部懇親会の閉会となりました。

池本 克行（昭62年卒）記

東京支部総会及び評議員会報告

平成12年5月28日（日）に、例年通り目黒の八芳園にて、東京支

部の評議員会、支部総会を実施しました。

昭和9年卒業の大先輩から平成11年卒まで、総勢66名の会員の参加があり、本部からは近藤文治会長（昭18年卒）、教室からは宅間董教授、奥村浩士教授（昭41年卒）を来賓としてお迎えし、東京より池上文夫先生（昭和22年卒、副会長）にご列席いただきました。

評議員会は廣支部長による挨拶で始まり、名簿発行、各種行事が無事実施できたことへの御礼が述べられました。続いて平成11年度の行事、予算・決算等の報告及び平成12年度予算案説明及び次期役員候補紹介が濱野総務幹事より行われ、承認されました。

支部総会では、廣支部長の挨拶に始まり、昨年度一年、会員の皆様の支援により活発な活動が行えたことへの御礼が述べられました。また今後予算制度も抜本的に改革されてゆくため、これらに備える必要がある点も指摘されました。統いて近藤文治会長のご挨拶をいただきました。一昨年は電気教室百周年行事を迎えたが、教室の重みを考える機会を得たことが述べられました。また電気系教室のありかたが大きく変貌してゆく状況、同教室が新桂キャンパスに第一号として移転する点についてお話し頂きました。さらに今後とも活発な活動により、関西、東京両支部が洛友会の両翼を担つて参りました。

行つて欲しいとの願いが述べられました。

その後、平成11年度の予算・決算報告が審議、承認されました。

引き続き平成12年度の新役員を選出し、平成12年度は、川本支部長（昭34年卒）、角副支部長（昭35年卒）、大橋総務幹事（昭56年卒）

小倉会計幹事（昭57年卒）の体制となりました。川本新支部長の挨拶では、東京支部が、各種行事、グループ活動を取りまとめる幹事連の企画力とボランティア精神に支えられ、会に参加したメンバーがリピーターとなり常連が形成され、比較的の共通した社会的価値観を持つた同窓生の良い意味での社交クラブとして機能しているとの認識が述べられると共に、本年度の運営に当たつても、この活動を継続発展させるべく

支部活動を運営していくことになりました。川本新支部長の挨拶では、東京支部が、各種行事、

桂キヤンパスの移転計画、学生の就職の現状報告が行わされました。

先生には大変入り組んだ移転計画をOHPを用いて大変わかりやすくご報告下さいました。その後平成11年度に米寿・喜寿を迎えた方々（米寿8名、喜寿9名）のお祝いを行ない、出席させていた

横山義一様（昭14年卒）、原田常夫様（昭21年卒）に代表として、それぞれ米寿・喜寿のお祝いの目録が手渡されました。

支部総会の後、恒例の懇親会は廣前支部長、宅間教授のご挨拶の後、角副支部長の乾杯で始まりました。久しぶりに再会した会員の方たちの話の輪があちこちで広がりました。また、米寿を迎えた横山様、喜寿を迎えた原田様に記念のスピーチを頂いたりと、和やかなひとときを過ごしました。最後は川本新支部長のメで散会しました。

（2）新規参加者の勧誘による常連の充実 拡大

を基本にしてゆく抱負が述べられました。また洛友会全体の問題点についても、本部との連携の下に積極的に取り組むが、特に会費納入率低下問題は支部として対策を

（1）幹事を中心とする企画の異なる充実

を基本にしてゆく抱負が述べられました。また洛友会全体の問題点についても、本部との連携の下に積極的に取り組むが、特に会費納入率低下問題は支部として対策を

1. 新ホームページオープン

これまで洛友会東京支部では、

前年の総務幹事伊藤様のご厚意により、個人のホームページを間借りして、98年5月より運営を続け

いました。この間各種の総会

奥村教授からは、情報学研究科設立に伴う、電気系教室の変革の概要、今後建設が予定されている桂キヤンパスの移転計画、学生の就職の現状報告が行わされました。

引き続き平成12年度の新役員を選出し、平成12年度は、川本支部長

（昭34年卒）、角副支部長（昭35年卒）、大橋総務幹事（昭56年卒）

小倉会計幹事（昭57年卒）の体制となりました。川本新支部長の挨拶では、東京支部が、各種行事、

桂キヤンパスの移転計画、学生の就職の現状報告が行わされました。

先生には大変入り組んだ移転計画をOHPを用いて大変わかりやすくご報告下さいました。その後平成11年度に米寿・喜寿を迎えた方々（米寿8名、喜寿9名）のお祝いを行ない、出席させていた

横山義一様（昭14年卒）、原田常夫様（昭21年卒）に代表として、それぞれ米寿・喜寿のお祝いの目録が手渡されました。

支部総会の後、恒例の懇親会は廣前支部長、宅間教授のご挨拶の後、角副支部長の乾杯で始まりました。久しぶりに再会した会員の方たちの話の輪があちこちで広がりました。また、米寿を迎えた横山様、喜寿を迎えた原田様に記念のスピーチを頂いたりと、和やかなひとときを過ごしました。最後は川本新支部長のメで散会しました。

（2）新規参加者の勧誘による常連の充実 拡大

を基本にしてゆく抱負が述べられました。また洛友会全体の問題点についても、本部との連携の下に積極的に取り組むが、特に会費納入率低下問題は支部として対策を

東京支部活動について

大橋 正良（昭56年卒）記

（1）幹事を中心とする企画の異なる充実

を基本にしてゆく抱負が述べられました。また洛友会全体の問題点についても、本部との連携の下に積極的に取り組むが、特に会費納入率低下問題は支部として対策を

2. 講演会の開催について

本年は講演会を昨年と合同開催の形で、9月に、京都大学百周年

などの会合報告、サークル活動、趣味の会の報告、見学会、旅行会などの報告を画像も交えて掲載すると共に、旅行会、総会の参加申込も行えるよう、各種充実を試みてきました。ホームページを活用することにより、はがきによる周知に比べ、

・迅速な連絡が可能。

・過去の行事などの情報にも簡単にアクセス可能。

・短期に地方に赴任されている方、あるいは外国在住の洛友会会員でも情報取得可能。

・Webによる申し込み手法を採用することで、処理の効率化が可能。

などの多くのメリットが見込まれます。

さらに多くの会員からもすぐには覚えられてわかりやすく、アクセスしやすい形にすることが望まれることから、今回洛友会として利用できる専用のドメインを取得し、5月31日より新サーバの運営を開始しました。新しいURLは、<http://www.rakuyukai.org/tokyo/main/h12events.htm>

を参照して顶くが、もしくは、幹事会場所：（社）銀行俱楽部 東京都千代田区丸の内1-3-1

（東京銀行協会ビルディング内）
TEL 03-5252-3791
FAX 03-5252-3791
e-mail:ohashi@kddlabs.co.jp

までお連絡下さい。

東京支部見学会報告

絶好の行楽日和となつた4月7日の金曜日、約60名の参加で東京支部見学会を実施いたしました。

今年は、電子顕微鏡に関する世界最高水準の研究開発を進められている日立基礎研究所（鳩山、埼玉県）を見学しました。

8時に東京駅に集合。いつものように新丸の内ビル前にて参加の皆様をお迎えしました。今回は60名の参加があつたので、はとバスを2台依頼し、分乗して出発。

1名は途中、高坂駅で途中参加の方

記念事業の際には、多大なご貢献をいたいたアサヒビール（株）名誉会長の樋口廣太郎氏をお迎えして講演会を実施します。日時：9月6日（水）16時～17時30分、開催後簡単なパーティを行います。

1990年移設されたそうです。
本研究所は、大変閑静な、自然
に囲まれた環境にあります。広く
手入れの行き届いた庭園が一面に
広がり、研究者には、非常に理想的
な環境に見えました。中には吹
き抜けになつたディスカッショニ
ング室や、噴水の池に面したカブ
エテリヤ、さらには、お茶室や工
アロビクススタジオまで完備して
います。

話が環境ばかりになりました
が、本研究所では、現在ノーベル
賞候補となつてゐる外村氏をはじめ、多くの研究者が高性能電子顕
微鏡、超伝導、ナノデバイス、量子計測技術等に関する世界最高水
準の研究開発を行つています。

頂きました。また、この5月に四国八十八ヶ寺を満願され、四国支部の会員にも世話をなつたとのお礼を頂きました。

橋先生からは、教室のこの一年間の電気系内の異動のご紹介のか、桂キャンパスでの新しい試みとして、工学研究科内の横糸を結ぶためのインテックのプロジェクトおよび全学的な国際融合創造センターの構想をご紹介頂きました。研究科分離で電気系は縮小したが、これらの試みを活用して、今後も電気系から新しい提案を発信し、大きく発展してゆくよう努めたい。諸先輩方のご支援もよろしくお願いしたいとのお話を頂きました。

会務報告では元支部長の中川修一郎氏（昭和15年卒）、および小森善明氏（昭和11年卒）が亡くなられたこと、また、渡部兼雄氏（大正12年卒）が満百才を迎られたこと等が紹介されました。昨年度に転入され総会初参加となる増井久之氏（昭和41年卒）から新天地へ赴任されたご心境や学生時代の思い出等の挨拶がありました。前年度会計報告、今年度予算案提案については満場一致で承認されました。

本年度は支部役員のうち幹事の改選が提案され、川上博氏（昭和41年卒）、赤股義高氏（昭和49年卒）に代わり、新幹事に来山征二氏（昭和42年卒）、藤本靖氏（昭和49年卒）が選任されました。

大野支部長の挨拶があり、議事に入る前に昨年5月、百歳の御高齢でお亡くなりになつた本多顧問を偲び全員黙祷、そのご冥福をお祈りしました。

中部支部総会報告

翌日は両先生ともにご都合があり、当地のご案内はできませんでしたが、ぜひまた、ごゆっくりといらして頂きたく思います。

杉原 洋（昭63年卒）記

恒例の全員の寄せ書きが完成したところで、全員が肩を組み、これも恒例となりました「逍遙歌」と「琵琶湖周航の歌」の合唱で懇親会を締めくくりました。

その後、橋先生を始め有志一同は街に繰り出し、学生時代の逸話や、京都の今昔等の話に花を咲かせ、また、自慢の喉を披露しあい、深夜まで親交を深めました。

即ち、独立法人化（官から財団法人的に）学部中心から大学院の研究主体、企業からの委託研究と大学の活性化が求められる。大学院の充実、再編成の最も大きいのが電気系教室である。吉田では狭くてどうにもならぬ。桂キャンパス構想についてお話を頂きました。

平成12年度事業計画		
1. 懇親閉幕大会	日時 7月8日（土）	13時
	場所 NDS社友会サロン	
2. 懇親ゴルフ大会	日時 10月1日（日）	
	場所 鳴海カントリークラブ	
3. 家族同伴秋の例会	日時 10月7日（土）	
	集合 名鉄メルサ西口	
4. 行き先「大垣博」と 「なばなの里」	8時30分出発	
石川 進（昭26年卒）記		

引き続き懇親会に入り、昭和8年卒川端さんの健康法による乾杯に始まり、恒例の近況報告です。90歳の川端さんの健康法は歩くこと、「歩いていると俳句が生まれる。」に一同感銘、又長生きしても「惚けたらあかん、惚け防止法」など、久しぶりの先輩・友人との歓談に会は盛り上がりります。

最後に幹事の提案、京都大学学歌は昭和15年制定、詩、曲とも素晴らしい歌だが若い人には馴染まないのか、殆ど歌われない。百周年行事で新学歌制定の動きがあつた。

中部支部の平成12年度総会は6月17日11時から、名古屋駅前の名鉄グランドホテルで開催されました。本部から近藤会長にご出席頂きました。本部から大野支部長以下11名が参加しました。

関西支部総会報告

今回も周航歌は三高寮歌だが、一般に親しまれ、むしろ三高寮歌と知っている人は少ないくらいだ。京都大学は三高から生まれ、三高は京大に吸収された。他の支部で「校歌代わりに」歌われているようだから中部でも歌いたい。と歌詞を配布、了承された。

なお平成12年度事業計画は次のとおりです。中部支部会員のご参加をお待ちしています。

なお平成12年度事業計画は次のとおりです。中部支部会員のご参加をお待ちしています。



支 部 長 田中 千秋（昭33年卒）副支部長 伊藤 俊一（昭34年卒）総務幹事 高須 啓次（昭43年卒）会計幹事 水谷 實（昭59年卒）の各氏です。最後に新役員を代表して田中新支部長より御挨拶があり、支部総会は閉会しました。

なお、今年の家族見学会は10月1日（日）に関ヶ原・各務原方面で開催されました。

の予定です。

支部総会終了後、本部総会が開催され、（本部総会記事ご参照下さい）本部総会に統いて懇親会が始まり、宮本前支部長のご発声による乾杯が執り行われました。

平成12年10月8日(日)
於 武庫ノ台ゴルフコース
多数のご参加をお待ちしております。

東北支部総会報告

関西電力 八木 誠（昭47年卒）

TEL
0675010345

会の歌」を全員で齊唱し、大嶋副会長の閉会の御挨拶で締めくくり、次回の再会を誓ったところで散会となりました。

玉田浩一郎（平7年卒）記

関西支部ゴルフ競技会報告

第73回関西支部ゴルフ競技会が平成12年5月28日(日)武庫ノ台ゴルフコースにて開催されました。当初天候が心配されましたが、幸い当日は好天に恵まれ、昭和16年卒の加藤孝一氏を筆頭に、合計24名(うちシニアの部3名)が競技に汗を流しました。結果は次の通りです。

一般の部

3位	優勝	（シニニアの部）	2位	優勝
2位	藤本	（昭30年卒）	3位	松尾
加藤	福川	（昭21年卒）	中村	茂朗
孝一	幸勇	（昭16年卒）	勤	（昭46年卒）
（昭16年卒）	（昭30年卒）			（昭38年卒）

その後、東北支部恒例となつて
いる総会スピーチが行われ、今年
度は伊藤会員が「電力会社とマイ
クロ波無線通信」と題してスピー
チし、東北電力株により国内初の
マイクロ波無線による通信の実用
化が仙台～会津間で昭和28年に実
現され、翌年には仙台～東京間まで
延長されたという驚くべき事柄

生憎 台風3号と重なり、新幹線ダイヤの乱れが心配されました
が、幸いにも総会開始時刻のほんの1～2時間前に台風が先に仙台を通り過ぎたため、参加予定者全員が無事揃つての総会となりました。

平成12年7月8日、仙台ホテルにおいて洛友会東北支部総会を開催しました。

今三廿二



例会を重ねて来ましたか
業55周年の会合を最後に寄る年波には勝てず屋外行事は取り止め、
会は室内の行事のみとなりました。
当日は偶々陽春の好天気に恵まれ遙々東京から2名、岡山から1

に、僅か2時間半許りの歓談の時間が、意外に早く終わりました。お互に更なる幸せな生涯を期待し合い、運良く長生きすれば翌年の再会をも期待して、楽しい貴重な会合を解散致しました。以上。

同窓会だより

昭十会65周年記念会報告

昭和10年卒業の私共（現在生存会員15名）は、本年65周年を迎えたので、去る4月12日京都のホテルに於て会員9名（外に同伴者4名）参加のもとに、近年続けている会食だけの記念大会を催しました。

吾々同期の者は戦後昭和30年以来5年毎に観光ゴルフ等の実施を半ば会合と重ねて来てこそ、これまで

会は先ず、数日前計らずも急逝されました会員の塩澤・高木両氏の慰靈の為、一同で黙祷を捧げさせて頂きました。続いて出席者が夫々近況報告を発表して、お互いの生活状況等の概略を披露して頂きました。又話題は古き良き昭和初期の学生時代より戦前戦中戦後に亘る世情、更に老いたる現状に至る迄お互に生き延びた幸せを深く囁み締めることができました。

名の会員が御家族同伴で出席されました。

同窓会だより

昭十会65周年記念会報告

青葉が目にしみる5月19日、赤



卒業の古屋君、山崎君も加わってリハビリ中の田中哲郎先生のお見舞いに伺つたところ、先生が驚くほど回復しておられたことは涙の出るほど嬉しいことだった。

夜6時から始まつた同窓会には卒業者53名のうち物故者は僅かに2名という珍しく元気なクラスを象徴するように、留学生だったジヨコ・スヨト君もインドネシアから参加し、竹屋先生をお招きして出席者35名という盛大な50周年となつた。竹屋先生は昨年、脚を骨折されてリハビリ中であつたが、奥さんとともにわざわざ杖をついて来られ、「このクラスは私が助教授になつて初めて就職担当になつたのだが、終戦直後の不景気で企業からの募集が少なく、先輩の方々にお願いして何とか採用して頂いた思い出がある。君も、君もどうだつたなあ。」とのご挨拶に一同シユンとした。その後全員が50周年の歴史を報告すべきところだが、今年は卒業50周年にあたり京都で開催した。

朝9時から京都ゴルフクラブでコンペ。これは毎年行つてゐる。なにしろ中国支部大会で連続優勝の石田君や、東京支部大会で優勝の西岡君、それに関西支部大会ではジュニア、シニアでダブル優勝の藤島が同級生なのだから年中行事になるのも当然である。中山君も加わつて親睦ゴルフを楽しんだ。参加者22名は丁度舟一艘の定員になるので、我々25年組だけの貸切舟となつて心ゆくまで両岸

卒業の古屋君、山崎君も加わつてリハビリ中の田中哲郎先生のお見舞いに伺つたところ、先生が驚くほど回復しておられたことは涙の出るほど嬉しいことだった。

夜6時から始まつた同窓会には卒業者53名のうち物故者は僅かに2名という珍しく元気なクラスを象徴するように、留学生だったジヨコ・スヨト君もインドネシアから参加し、竹屋先生をお招きして出席者35名という盛大な50周年となつた。竹屋先生は昨年、脚を骨

折されてリハビリ中であつたが、奥さんとともにわざわざ杖をついて来られ、「このクラスは私が助教授になつて初めて就職担当になつたのだが、終戦直後の不景気で企業からの募集が少なく、先輩の方々にお願いして何とか採用して頂いた思い出がある。君も、君もどうだつたなあ。」とのご挨拶に一同シユンとした。その後全員が50周年の歴史を報告すべきところだが、朝までかかりそなうなので指名制で8時半まで語り継ぐことにし、あとは2次会となつた。その間に外はドシャ降りの大霖になつて、翌日は心配していた雨も上がり、予定通り嵯峨野線で亀岡まで行き、保津川下りを楽しんだ。参加者22名は丁度舟一艘の定員になるので、我々25年組だけの貸切舟となつて心ゆくまで両岸

だ。ゴルフからの帰途、姫路高校卒業の古屋君、山崎君も加わつてリハビリ中の田中哲郎先生のお見舞いに伺つたところ、先生が驚くほど回復しておられたことは涙の出るほど嬉しいことだった。

の風景を楽しんだ。嵐山で昼食後来年の再会を約して解散した。

藤島 啓(昭25年卒)記

昭和30年会45周年クラス会

電気工学科を卒立つてより5年目毎に開催してきた私達のクラス会は、今年の45周年をミレニアムクラス会と銘打ち、場所を搖籃の地京都に定めて近畿在住の諸兄に肝いりを願い、薰風かおる5月12日、クラス会とゴルフや市内観光などの行事を持ちました。

クラス会懇親会場は御所を東に望む烏丸通りの平安会館、恩師の池上淳一先生のご臨席を得て総勢47名(クラスメート39名、同伴夫人8名)が参集し、和会席に美酒一献また一献、日常の報告あり懐旧談あり、微醺に久闊を叙して和氣蕩々たる一夕でした。

池上先生の同伴奨励のお話に同感のおもむき多く、いづれは夫人の意向を反映したクラス会に変貌が予感されます。

当日朝からのゴルフには15名(内同伴2名)が参加して京都ゴルフの上賀茂コースを回り、敢えて成績を問わぬ設営に大半のメンバーは満悦、但し懇親会場に張り出されたスコア表には反省しきりでした。

吹訣 直温(昭30年卒)記



吉信などに京大キャンパス見学を加え、月並みを排したコース選定で、久方ぶりに新緑の古都を満喫しました。

翌日は心配していた雨も上がり、予定通り嵯峨野線で亀岡まで行き、保津川下りを楽しんだ。参加者22名は丁度舟一艘の定員になるので、我々25年組だけの貸切舟となつて心ゆくまで両岸

の風景を楽しんだ。嵐山で昼食後来年の再会を約して解散した。

藤島 啓(昭25年卒)記

編集後記

以上の方々がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。

残暑お見舞い申し上げます。お盆もすぎ朝夕は少しばかり涼しく感じられます。

今年の夏は北海道「有珠山」、

門跡寺院の曼殊院、和菓子の鶴屋

三宅島での噴火や伊豆諸島近海で

の郡発地震が多発し今なお無気味な活動に特に暑く感じられました。

一方沖縄での今世紀最後のサミットは平穏裡に終始したが、「沖縄I-T憲章」を踏まえてI-Tの層の発展に期待がもたれ、これに関連した業務に携わつておられる会員諸氏にとつては別のホットな闘いが今後ますます激しくなりそうです。景気回復の先導役として注目が集まっています。

松本 博記

計 報

講大	15	的場	廣治
昭6		野際	幸雄
講昭8		丸尾	孝好
講昭9		河野	勝也
講昭10		石本	吉男
講昭11		小森	弘
講昭12		高木	正
講昭13		塩澤	
講昭14		馬淵	
講昭15		重三	
講昭16		仁社	
講昭17		英三	
講昭18		藤夫	
講昭19		栗原	
講昭20		坂和	
講昭21		和泉	
講昭22		佐藤	
講昭23		岩野	
講昭24		村上	
講昭25		行賢	
講昭26		直美	
講昭27		仁社	
講昭28		英三	
講昭29		藤夫	
講昭30		栗原	
講昭31		坂和	
講昭32		和泉	
講昭33		佐藤	
講昭34		岩野	
講昭35		村上	
講昭36		行賢	
講昭37		直美	
講昭38		仁社	
講昭39		英三	
講昭40		藤夫	
講昭41		栗原	
講昭42		坂和	
講昭43		和泉	
講昭44		佐藤	
講昭45		岩野	
講昭46		村上	
講昭47		行賢	
講昭48		直美	
講昭49		仁社	
講昭50		英三	
講昭51		藤夫	
講昭52		栗原	
講昭53		坂和	
講昭54		和泉	
講昭55		佐藤	
講昭56		岩野	
講昭57		村上	
講昭58		行賢	
講昭59		直美	
講昭60		仁社	
講昭61		英三	
講昭62		藤夫	
講昭63		栗原	
講昭64		坂和	
講昭65		和泉	
講昭66		佐藤	
講昭67		岩野	
講昭68		村上	
講昭69		行賢	
講昭70		直美	
講昭71		仁社	
講昭72		英三	
講昭73		藤夫	
講昭74		栗原	
講昭75		坂和	
講昭76		和泉	
講昭77		佐藤	
講昭78		岩野	
講昭79		村上	
講昭80		行賢	
講昭81		直美	
講昭82		仁社	
講昭83		英三	
講昭84		藤夫	
講昭85		栗原	
講昭86		坂和	
講昭87		和泉	
講昭88		佐藤	
講昭89		岩野	
講昭90		村上	
講昭91		行賢	
講昭92		直美	
講昭93		仁社	
講昭94		英三	
講昭95		藤夫	
講昭96		栗原	
講昭97		坂和	
講昭98		和泉	
講昭99		佐藤	
講昭100		岩野	
講昭101		村上	
講昭102		行賢	
講昭103		直美	
講昭104		仁社	
講昭105		英三	
講昭106		藤夫	
講昭107		栗原	
講昭108		坂和	
講昭109		和泉	
講昭110		佐藤	
講昭111		岩野	
講昭112		村上	
講昭113		行賢	
講昭114		直美	
講昭115		仁社	
講昭116		英三	
講昭117		藤夫	
講昭118		栗原	
講昭119		坂和	
講昭120		和泉	
講昭121		佐藤	
講昭122		岩野	
講昭123		村上	
講昭124		行賢	
講昭125		直美	
講昭126		仁社	
講昭127		英三	
講昭128		藤夫	
講昭129		栗原	
講昭130		坂和	
講昭131		和泉	
講昭132		佐藤	
講昭133		岩野	
講昭134		村上	
講昭135		行賢	
講昭136		直美	
講昭137		仁社	
講昭138		英三	
講昭139		藤夫	
講昭140		栗原	
講昭141		坂和	
講昭142		和泉	
講昭143		佐藤	
講昭144		岩野	
講昭145		村上	
講昭146		行賢	
講昭147		直美	
講昭148		仁社	
講昭149		英三	
講昭150		藤夫	
講昭151		栗原	
講昭152		坂和	
講昭153		和泉	
講昭154		佐藤	
講昭155		岩野	
講昭156		村上	
講昭157		行賢	
講昭158		直美	
講昭159		仁社	
講昭160		英三	
講昭161		藤夫	
講昭162		栗原	
講昭163		坂和	
講昭164		和泉	
講昭165		佐藤	
講昭166		岩野	
講昭167		村上	
講昭168		行賢	
講昭169		直美	
講昭170		仁社	
講昭171		英三	
講昭172		藤夫	
講昭173		栗原	
講昭174		坂和	
講昭175		和泉	
講昭176		佐藤	
講昭177		岩野	
講昭178		村上	
講昭179		行賢	
講昭180		直美	
講昭181		仁社	
講昭182		英三	
講昭183		藤夫	
講昭184		栗原	
講昭185		坂和	
講昭186		和泉	
講昭187		佐藤	
講昭188		岩野	
講昭189		村上	
講昭190		行賢	
講昭191		直美	
講昭192		仁社	
講昭193		英三	
講昭194		藤夫	
講昭195		栗原	
講昭196		坂和	
講昭197		和泉	
講昭198		佐藤	
講昭199		岩野	
講昭200		村上	
講昭201		行賢	
講昭202		直美	
講昭203		仁社	
講昭204		英三	
講昭205		藤夫	
講昭206		栗原	
講昭207		坂和	
講昭208		和泉	
講昭209		佐藤	
講昭210		岩野	
講昭211		村上	
講昭212		行賢	
講昭213		直美	
講昭214		仁社	
講昭215		英三	
講昭216		藤夫	
講昭217		栗原	
講昭218		坂和	
講昭219		和泉	
講昭220		佐藤	
講昭221		岩野	
講昭222		村上	
講昭223		行賢	
講昭224		直美	
講昭225		仁社	
講昭226		英三	
講昭227		藤夫	
講昭228		栗原	
講昭229		坂和	
講昭230		和泉	
講昭231		佐藤	
講昭232		岩野	
講昭233		村上	
講昭234		行賢	
講昭235		直美	
講昭236		仁社	
講昭237		英三	
講昭238		藤夫	
講昭239		栗原	
講昭240		坂和	
講昭241		和泉	
講昭242		佐藤	
講昭243		岩野	
講昭244		村上	
講昭245		行賢	
講昭246		直美	
講昭247		仁社	
講昭248		英三	
講昭249		藤夫	
講昭250		栗原	
講昭251		坂和	
講昭252		和泉	
講昭253		佐藤	
講昭254		岩野	
講昭255		村上	
講昭256		行賢	
講昭257		直美	
講昭258		仁社	
講昭259		英三	
講昭260		藤夫	
講昭261		栗原	
講昭262		坂和	
講昭263		和泉	
講昭264		佐藤	
講昭265		岩野	
講昭266		村上	
講昭267		行賢	
講昭268		直美	
講昭269		仁社	
講昭270		英三	
講昭271		藤夫	
講昭272		栗原	
講昭273		坂和	
講昭274		和泉	
講昭275		佐藤	
講昭276		岩野	
講昭277		村上	
講昭278		行賢	
講昭279		直美	
講昭280		仁社	
講昭281		英三	
講昭282		藤夫	
講昭283		栗原	
講昭284		坂和	
講昭285		和泉	
講昭286		佐藤	
講昭287		岩野	
講昭288		村上	
講昭289		行賢	
講昭290		直美	
講昭291		仁社	
講昭292		英三	
講昭293		藤夫	
講昭294		栗原	
講昭295		坂和	